

## 第18回至高の精神展 野村瑞穂「土のよはく」によせて

平成29年1月28日(土)～2月26日(日)開催

砺波市美術館 主任学芸員 杉本 積

観覧無料 ※会期中2月20日(月)は施設点検のため休館いたします。

至高の精神展 IN SPIRITU ALTISSIMOは、多様な現代美術の分野で活躍している作家を紹介する展覧会です。第18回目となる今回は、「土のよはく」と題して上市町在住の陶芸家 野村瑞穂(のむら みずほ)さんの近作を中心に新作を加えて作品を紹介します。

野村さんは、1966年上市町に生まれ、高校時代は美術部に所属し創作することの楽しさを実感して、京都市立芸術大学美術学部工芸科陶磁器専攻に進学します。そこで、前衛陶芸家集団「走泥社」の創立メンバーであり同校教授の鈴木治(1926～2001)に出会います。鈴木の造形を追求した陶芸作品に魅了され、自身もオブジェの制作に取り組み始めます。彼女は、在学中から発表を行い1990年には朝日陶芸展で新人陶芸賞を受賞します。大学院修了後は、倉敷アイビースクエア陶芸教室の講師を務めた後、95年に帰郷、上市町で築窯し本格的に作家活動を開始します。彼女の作品は、人肌を思わせる表面と緩やかな曲線で構成されており、土と命の温かみを感じさせる独自の表現で注目を集めています。



野村瑞穂アトリエ「陶工房 野村」上市町

私は、11月下旬に本展開催準備のため上市町のアトリエに野村さんを訪ねました。そこは、光が柔らかく差し込む明るい空間で、陶芸教室も行っているとのことでした。作業台や窯の周囲を見ると教室に通う生徒の作品や自作の皿や器が置いてありました。その傍らには、今回の展示で発表予定の新作を制作中で、展覧会へ向けての強い意欲が伝わってきました。